

感染症・リウマチ内科

1. 設立の経緯

当科は2011年に設立され、感染症および免疫疾患、リウマチ性疾患の診療を専門とする診療科として発足した。以降、外来診療や院内外からの紹介患者さんの診療、コンサルト業務を通じて、専門性の高い医療提供に努めている。

2. 業務

昨年度に引き続き、当科は感染症、免疫疾患、リウマチ性疾患の外来診療を中心とし、院内外からの紹介患者さんの診療およびコンサルト業務を担当した。また、感染症診療の一環として、感染対策の指導、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動の指揮、院内職員向け講習、研修医教育を行い、院内外の医療水準向上に貢献した。

3. 実績

当科診療対応症例の主なものは、関節リウマチで、その他、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、混合性結合組織病、強直性脊椎炎や乾癬性関節炎を含めた脊椎関節炎、ANCA 関連血管炎などの血管炎、リウマチ性多発筋痛症や巨細胞性動脈炎、ベーチェット病、などの診療を行ってきた。感染症では、HIV感染症、梅毒、EBV/CMV感染症、菌血症、などの特殊感染症の治療を行った。

感染対策業務として、院内感染対策の指導、入院患者の血液等培養陽性時のカルテチェックおよび抗菌薬使用介入、院内職員向け感染症および抗菌薬使用に関する講習の開催、研修医教育（外部講師を招いた感染症・抗菌薬講義 年2回）、ICT/AST回診を通じた研修医へのチーム医療・感染対策教育、などを行った。

4. 人事・組織

2024年9月より、総合診療内科の医師が当科へ所属変更となり、診療体制の強化が図られた。

5. 課題と展望

膠原病専門外来の再開：

2023年7月に終了した応援医師による膠原病専門外来について、来年度の再開を目指して交渉を継続中である。

院内診療レベルの向上：

コンサルト業務およびASTチーム活動を通じ、院内の感染症診療レベル向上を目指す。

地域医療への貢献：

地域における膠原病・リウマチ診療の充実を図り、患者さん受け入れの拡大に努める。

今後も診療、教育、感染対策の各領域での発展を目指し、より高水準の医療を提供していく所存である。

（部長 志智 大介）

・医師数 2名 ・専攻医 0名
・初期研修医 0名

（2025年4月現在）

【入院患者】（単位：人）

| | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 新 入 院 | 210 | 198 | 187 | 12 | 8 |
| 退 院 | 25 | 210 | 173 | 14 | 9 |
| 延べ人数 | 2,349 | 3,046 | 2,767 | 293 | 104 |
| 一日平均 | 6.4 | 8.3 | 7.6 | 0.4 | 0.3 |

【外来患者】（単位：人）

| | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 新 来 | 143 | 310 | 113 | 62 | 58 |
| 再 来 | 2,956 | 3,213 | 3,009 | 2,531 | 2,615 |
| 延べ人数 | 3,099 | 3,523 | 3,122 | 2,593 | 2,673 |
| 一日平均 | 10.6 | 12.0 | 10.7 | 8.8 | 9.1 |

【平均在院日数】（単位：日）

| 年 度 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 日 数 | 10.2 | 15.5 | 15.3 | 11.7 | 10.4 |